

ポイント2 知識の83%が目から入る

“漢学で教える”実例

幼稚園で「手を洗う」という生活指導を
するとしますと、黒板にまず「手を洗う」と
書きます。すると、好奇心が強い幼児た

ちは、何を書くのだろうと黒板に目をやります。

そこで、黒板の字を指さしながら「手を洗う」と読みます。そして「今日
は“手を洗う”ということで大切なお話をします。皆さんは、どんな時
に手を洗いますか。はい、だれか？」と言って発言をうながします。

「手を洗う」という言葉を目にするたびごとに、黒板の字を指さしま
すので、幼児たちは「ああ、あれは“てをあらう”と読む字なのか」と思
います。幼児期は記憶力が最も強いので、幼児たちはそう思っただ
けで、この「手を洗う」が頭に焼付けられます。

私たちの知識は、五官別にこれを分類しますと、目によるものが
83%、耳によるものが11%、その他の合計が6%、ということになって
います。目から得られる知識が圧倒的に多いのです。言い換えます
と、耳に訴えるだけの教育は効率が良くないのです。

事実、耳に訴えると同時に、「手を洗う」という“目で見える言葉”により
幼児の目に訴えますと、幼児は目と耳と二つの器官を使いますので、
耳だけに訴えるのに比べて、ずっと良く頭の中に入ります。ある調査
によりますと、「目と耳とによる記憶は、耳だけの記憶の6.5倍も強い」
とされています。

コ ラ ム

部首 广

麻という字に使われる垂という意味で麻垂というが、これは
のように、片側が開放された家を表したもの。よく出入りする家
や、物を出し入れする建物を表す字に使う。

【庫】 “車庫”を表した字。今では広く“ものを入れておく建物”
の意味で使う。「書庫」「金庫」。

【店】 お客に開放されている家の形の广と占との形声字。